令和７年度　　学校「学ぶ力」育成プログラム【藤野中学校】

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：36010

実態

「学ぶ力」

これまでの　成果	課　題
◇R６年度は、特に課題探究的な学習において校内研修会等を通じて各取組や検証について共有・実践した。その結果約 80%の生徒が意見の違う人とも話し合おうとしており、また 88.1%が意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがあると回答した。このことから他者と関わる中で課題解決に向かう姿勢が定着していると考えられる。 ◇ICT の活用について、「特に端末を使う活動で友達の意見を進んで知ろうとしている」という設問では生徒が 85.3%と肯定的な回答をしており、ICT を生かした協働的な活動を進められていると考えられる。	◇学校全体として学びに向かう意識の醸成 ◇項目４「端末を使う活動で自分の意見を進んで伝えようとしている」では、特に１学年において肯定的な回答が 56.4%と他学年と比較して 10%以上低い結果となった。本校では R７年度の校内研修のテーマとして、ICT を活用して生徒が主体的に学ぶことができる授業研究に重点を置きたいと考えている。各教科、特別な教科「道徳」などの授業で、課題解決に向けて、他者との対話や自己対話など思考が深まる学びや、考えをまとめ発表する場面で ICT を効果的に活用し主体的・対話的で深い学びの実現を目指したい。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉　の現状と課題

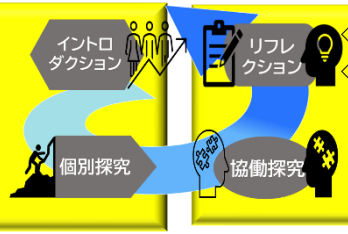
◇項目１～５に対し全市の平均を全て上回る結果となったことから、各学年において「互いの良さを認め合う」ことを目標として指導をしている学校としての成果が出ていると考えられる。項目３について自校も肯定的な回答が少なく、自分の良さについて気付いていくことが課題である。自己について見つめるキャリア教育や、他者から自分のよさについて認められるような相互承認の機会を増やしていくことが今後の課題と考える。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した **課題探究的な学習**の推進

◇校内研修の充実
子どもを主体にした授業の導入
個人の考えを集団で共有する機会を作る
連続性のある授業計画の作成
次の自分の課題の明確化
行事や学級活動の際の指導の流れ・仕方の工夫



さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく **自治的な活動**の充実

◇自分たちの課題を意識し、課題を解決する方策を採る
◇藤野ふるさと会議を活用し、児童会・生徒会の交流を図る

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度
◇札幌市学校教育の周知
◇本校の育成プランについて検討

〔一人一人の教職員〕
◇育成プランを踏まえた授業研究
◇個に応じた指導の充実
◇指導と評価の一体化

〔学校全体〕
◇校内研修会・札教研
◇小中一貫した教育

次年度へ
◇校内研修会の反省
◇共通指標
◇全国学力・学習状況調査